

団体名	三原市	所属	生活環境課	他団体等との連携	地域住民等
連絡先	環境政策係 (0848)67-6194				

取組事例名	市民協働型の環境保全活動	取組期間	平成20年度～
--------------	--------------	-------------	---------

取組の概要 ～ みはらし環境会議&各地域会議の設立と実践

三原市環境基本計画の重点的な取組の実施や、地域で行われている環境保全活動についての情報交換などを行い、地域での環境意識の向上を図るために、平成20(2008)年に「みはらし環境会議」と各地域会議を設立した。環境基本計画の重点プロジェクトの企画・実践を行うために、三原市を5地域に分けた各地域実践組織である各地域会議において自主的な活動を積極的に行っている。

取組の背景 ～ みんなの協働により自然と共生する快適で安全なまちを次世代へ

望ましい環境像を描き、そのために必要な施策を提案、企画する場や環境保全活動を推進する人材育成の場として、「みはらし環境塾」を設立し、塾生が調査研究等を行い、5地域のグループで合計15の重点プロジェクトを策定した。

三原市環境基本計画では、望ましい環境像を「一人ひとりが輝く環境都市みはらし」とし、その実現のために市民、市民団体、事業者、行政(三原市)が協働で取り組むこととしている。

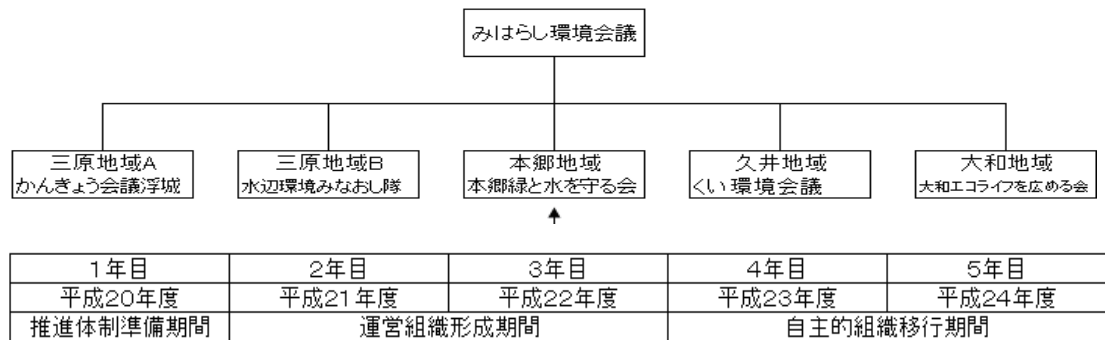
なかでも、15の重点プロジェクトのうち5つを重点的かつ実践的な取り組みとして位置づけ、「みはらし環境塾」を移行させ、「みはらし環境会議」と5つの各地域会議において実行するに至っている。

取組のねらい ～ 重点的な取組の実施や地域の環境保全活動

三原市環境基本計画で提言した重点的な取組の実施や地域の環境保全活動についての情報交換などを各地域会議で行い、各地域において環境意識の向上を図っている。

(1) 重点的な取組の実践・支援・管理
(2) 市民・市民団体・事業者との協働体制づくり
(3) 環境推進リーダー養成の場

取組の具体的内容 ～ みはらし環境会議&各地域会議を中心に“市民協働”を実践



重点プロジェクトの企画・実践のため、三原市を5地域に分けて、各地域に実践組織を立ち上げ、現在さまざまな環境活動に取り組んでいる。

地 域	名 称	設立日 (2008年)
三原地域A (沼田川北側地域)	かんきょう会議浮城	11月17日 (月)
三原地域B (沼田川南側地域)	水辺環境みなおし隊	11月14日 (金)
本郷地域	本郷緑と水を守る会	12月2日 (火)
久井地域	くい環境会議	11月26日 (水)
大和地域	大和エコライフを広める会	11月17日 (月)

みはらし環境会議		運営委員会（各地域会議3名の委員による全体会議）、自然観察会、生涯学習フェスティバル、地球温暖化防止・協働フォーラム、緑のカーテンコンテスト、みはらエコ百景、情報交流会、筆影山クリーンキャンペーン
地域会議	かんきょう会議浮城	さつき祭り・山の日ブース展示、エコクッキング教室、やっさ祭りエコレンジャー参加、生ごみリサイクル講演会、エコリーダー養成講座、緑のカーテン作り方講座、エコ講座、ハーブ園・市民農園作業、手づくり太陽光発電パネルづくりワークショップ、姫虫鑑賞会、和久原川一斉清掃
	水辺環境みなおし隊	ホテル保護活動&観察会、ホテル生息地整備作業、かんきょうマップ作成、合格祈願カード作成、エヒメアヤメ自生地大型看板設置及び周辺環境整備、緑のカーテン作り、さざなみ探検・海辺教室協力、自然観察会、ネイチャーゲームクラフト教室
	本郷緑と水を守る会	沼田川桜並木整備、「山の日」環境整備、沼田川中土手遊歩道整備、梨羽城跡整備、緑のカーテン作り、水辺教室協力、自然観察会
	くい環境会議	ホテル研修会、ほたるマップ作成、地産地消エコ講座、自然保護フォーラム、かんきょうマップ作成、落合橋周辺環境整備、ヒョウモンモドキ保護活動、中秋の名月鑑賞会、エコフェスタ参加、冬のエコライフ研修会
	大和エコライフを広める会	親子料理教室、水辺教室協力、だいわ元気まつり啓発ブース展示、かんきょうマップ作成、緑のカーテン作り、ホテル鑑賞会、鍋帽子奨励活動、自然観察会、散乱ごみ追放キャンペーン、一斉川の草刈り清掃、CO ₂ の排出量調査

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 各地域会議の自主運営体制の確保

各地域会議において、重点プロジェクトを計画的に実践しているが、永続的な自主的運営体制の確保に必要な自主財源や人材の確保が必要。

創意工夫した点 ～ 自主財源及び人材の確保のための取り組み

各地域会議において、魅力的な研修会やイベントを行うとともに、積極的な広報活動を行い、参加者を増やすことで、新規会員の増加につないでいる。また、スポンサーとして地元企業の賛同を得るための活動や各種助成金の申請等を行い、自主財源の確保に努めている。

取組の成果（効果）～ 地域会議の自主的・実践的な取組みの推進

（1）環境基本計画の重点プロジェクトが推進した。（2）里山・河川清掃整備など地域の環境保全で大きな評価を得た。（3）エコ・地球温暖化対策、ごみ減量化、自然観察会などのイベントや展示、参画型のブース設置、フォーラム・講座の開催等を行うことで市民レベルの啓発に効果があった。（4）地域の町内会、学校、企業等との連携が拡大し、みはらし環境会議の活動を通じてのコミュニティが活性化した。

今後の展開 ～ 自主性と自由な活動の推進

（1）環境基本計画の推進及び実践（2）活動の自主性と活動資金、人材等の確保（3）地域、企業、学校、他の市民団体との協働・連携の推進（4）会員数の拡大（5）効果的な具体的活動・事業の展開（6）幅広い協働と継続できる楽しい活動、新しい企画 など自主性と自由な活動を行う。

他団体へのアドバイス ～ 情報共有とベクトル合せ

各地域において、環境に関する市民活動団体が自主的に活動していると思われるが、市全域で一貫した取組を行う必要がある場合、または、市民、企業、行政も関わる協働で行う必要がある場合は、それを統括する組織が必要とされる。三原市では「みはらし環境会議」を設立し、概ね2ヶ月に1回のペースで運営委員会を開催し、運営委員会終了後に各地域会議がそれぞれの定例会議において会員に報告をする体制をとっている。環境問題に対する取組の推進を図る場合、協働する関係者すべてが情報を共有し、進むべくベクトルを合わせることができると考える。